

FY25 Q1 決算発表後に多かったご質問とご回答**全体**

Q 8月21日に1,000億円を上限とする自己株式の取得を発表されましたが、決算発表のタイミングで行わなかったのは何故でしょうか。

A 自己株式の取得については、当然のことながら各種レギュレーションがあり、いつでも自由に実施できるものではございません。Q1決算発表時（8/1）はレギュレーション上の制限がありましたので、こうした制限がなくなったタイミングでの発表・実施となりました。

Q 米国トランプ政権による関税措置の影響はどの程度ありますでしょうか。

A 当社の米国向け売上比率は15%程度であり、米国に直接輸出を行っている製品としてはメガネレンズ、内視鏡、マスクブランクです。主要生産地の関税率は最終的にタイ、ベトナム、フィリピンが19%-20%、シンガポールが10%、日本が15%となりましたが、価格転嫁や、工場の生産比率のアロケーション変更を行うなどの対応により、グループ全体の業績に対する影響は限定的となる見通しです。

ライフケア事業全体

Q Q1においてライフケア事業の利益率が17.7%と20%に届かなかった主な要因は何でしょうか。また、いつ20%に戻る見込みでしょうか。

A 毎四半期何かしらの一時的要因がありますが、それらの累積が前年Q4のようにプラスに振れることもあれば、マイナスに振れることがあります。当四半期はこれがマイナス側に振れたことに加え、メガネレンズ事業において大型チェーン店向けの売上が好調だったことにより製品ミックスが比較的収益性の低いストックレンズに寄ったことで、ベンチマークとしている19%~20%のレンジを下回りました。下期には概ねこのレンジ内に戻ることができる見通しです。

情報・通信事業全体

Q 情報・通信事業の利益率が50%程度に戻ると説明されていますが、Q1は52.9%と依然として高い水準が続いています。今後、利益率は本当に下がりますか。

A EUVブランクやFPDの生産キャパシティ拡大により、毎四半期減価償却費が増加し、これに伴い利益率がベンチマークとしている50%に収敛していく見通しです。一方でQ1のようにDUVブランクや映像製品の売上が想定以上に強いモメンタムとなった場合は減価償却負担増を一部打ち返し、50%+αとなる局面も想定されます。

メガネレンズ

Q 中国市場において、MiYOSMARTの模造品が出回っているようですが、どのように対応していますか？

A 多くの模造品が効果についてエビデンスがないまま販売されていると認識しています。当社は最長8年におよぶクリニカル・エビデンスに裏打ちされていることを訴求してまいります。

詳細はMiYOSMARTの公式サイトをご覧ください（英文のみ）。

<https://www.hoyavision.com/vision-products/miyosmartVr25/>

ブランク

Q 一部のEUV装置メーカーが需要の見通しを引下げましたが、当社のEUVブランクへの影響はありますか？

A 顧客が微細化に向けて研究開発活動にコミットされていることを背景に、EUVブランクの需要については中長期において安定的に拡大していく見通しであり、成長率の目線に変更はございません。

Q EUVブランクスにおいて競争環境に変化は見られないでしょうか。

A 当社は2nm以細のノードにおける認定活動において先行しており、競争環境に目立った変化は見られません。日本国外の企業がEUVブランクス事業に参入する報道がありましたが、現時点においては状況を大きく変えるものではないと考えます。

HDD基板

Q HDDの供給がタイトと言われているなか、顧客が値上げしているようですが、貴社はガラスサブストレート価格を上げないのでしょうか？

A 顧客との関係性をはじめ総合的に勘案し、現時点においては価格を据え置いています。

Q HDDメーカー各社がHAMR技術の採用について言及していますが、HAMRがHOYAにもたらすメリットを教えてください。

A HAMR技術を採用したHDDは、基板が10枚と最新のCMR HDDと基本的にフォームファクターは同じであり、またHAMR用基板は従来のものから大きな差がありませんので、有意なコンテンツグロースは見込んでいません。一方でHAMRは熱の問題からガラス基板が必須となることから、HAMRが業界のスタンダードとなった場合において当社のガラス基板採用が進み、当社のTAM拡大が期待できます。

映像

Q CUPOとはどのような商材でしょうか。

A CUPO（キューポ）は、AI時代の光通信インフラに不可欠な光アイソレーター向け偏光ガラスで、データセンター需要の急増により売上が急拡大しています。

※以前の四半期と重複する質問については、掲載は割愛しました。よろしければQ1-Q4のFAQも併せてご参照ください。

- [FY24 Q1 FAQ](#)
- [FY24 Q2 FAQ](#)
- [FY24 Q3 FAQ](#)
- [FY24 Q4 FAQ](#)

以上

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。

歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開

発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

お問い合わせ先:h-ir@hoya.com